
第 133 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXXXIII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2019 年 12 月 7 日（土）10:30 - 13:00

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1003 教室

担当者：川口正通

【教科書研究】

「日本で出版されたスペイン語教科書における語用論について」

* Fecha y hora: sábado, 7 de diciembre de 2019, de 10:30 a 13:00

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1003

* Encargado: Masamichi Kawaguchi

* [Estudios sobre los manuales didácticos]

“La pragmática en los manuales de español publicados en Japón”

スペイン語教育における語用論的要素は、頻繁に話題になるテーマの 1 つである。セルバンテス協会のカリキュラムプラン (Plan curricular del Instituto Cervantes) にも語用論的要素に関する項目が存在し、また GIDE が 2015 年に発表したいわゆる『スペイン語学習のめやす』にも、「社会文化項目」の中に「語用論に関わる項目」が入っている。このような状況から、このテーマに関するワークショップを企画した。

当日は、まず担当者から語用論の基礎概念に関する簡単なプレゼンテーションをおこなった。その後、参加者がペアになり、日本で出版されているスペイン語教科書数冊の中から 1 冊を担当して各教科書の中で扱われている語用論的要素を選び出す活動をおこなった。

1. 語用論とは（担当者によるプレゼンテーションより）

[...] se entiende por *pragmática* el estudio de los principios que regulan el uso del lenguaje en la comunicación, es decir, las condiciones que determinan tanto el empleo de un enunciado concreto por parte de un hablante concreto en una situación comunicativa concreta, como su interpretación por parte del destinatario.

（語用論という用語から理解されることは、コミュニケーションにおける言語の使用を規定する原理、すなわちある特定の状況における、ある特定の話者による、ある特定の発話の使用、および聞き手によるその発話の解釈に関する研究であるということである）

(Escandell 2013: 15-16)

語用論 (pragmatics) という領域は、人がことばを用いて行うコミュニケーションに焦点を当て、話し手はどのようにして聞き手にその意味を伝えるのか、聞き手はどのようにして話し手の意味を理解するのか、その際どのようなメカニズムが働いているのか、を明らかにすることを目的とする。

(三原・高見(編著) 2013:179)

1.1 会話の推意 (implicatura conversacional)

(1) Juan va a cenar con una mujer. (Escandell 2013: 87)

(1') Juan va a cenar con una mujer: la suya. (Escandell 2013: 88)

1.2 発話行為 (acto de habla)

(2) Abre la ventana.

(2') ¿Puedes abrir la ventana?

(2'') Hace calor, ¿verdad?

(3) Te prometo que te lo enviaré esta tarde.

1.3 ダイクシス (deixis)

(4) Esta es mi casa.

(5) Ayer visité su ciudad natal.

(6) Mi hijo estará allí.

(7) Me lo dijo uno de esos chicos.

(8) Voy a ir al gimnasio esta tarde.

1.4 ポライトネス (cortesía)

(9) Échame una mano.

(9') ¿Me puedes echar una mano?

(9'') ¿Podrías hacerme el favor de echarme una mano, por favor?

(10) Hola, vecina, la he llamado porque quiero que me cuide al niño hasta las siete.

(Pons Bordería 2005: 39)

(10')

Hola, vecina, disculpe que la moleste, pero es que resulta que esta tarde tengo que ir al despacho para hablar con un cliente y no tengo con quien dejar al niño. Ya sabe que a mí no me gusta molestar, pero es que mi mujer tiene una guardia y los abuelos del niño están fuera, así que no tenemos a nadie. ¿A ustedes les importaría que se lo dejara un poco? Será solo un par de horas, de verdad. (Ibid.)

2. グループワーク

参加者2名ずつがペアになり、それぞれのペアが日本で出版されているスペイン語教科書1つを選んで、その中で語用論に関する項目がどの程度扱われているかを見るというアクティビティをおこなった。使用した教科書は以下の4種類である。

- (1) 福嶋教隆(2014)『4 コマ・スペイン語』, 朝日出版社.
- (2) 和佐敦子(2014)『スペイン語基礎文法』, 白水社.
- (3) ラゴ、ピラルほか(2016)『発見！大好き！！スペイン語！！ 1 (¡Nos gusta! 1)』, 朝日出版社.
- (4) モヤノ・ロペス, フアン・カルロスほか(2018)『いいね！スペイン語 (¡Muy bien!)』, 朝日出版社.

以下、各グループの活動を通してわかったことをまとめる。

上記4冊の中で、(1)と(2)、特に(2)は文法を中心に据えた教科書であり、(3)と(4)はコミュニケーションに重きを置いた教科書であると考えられる。語用論的要素については、特に(4)においては勧誘や提案といった発話行為と関連づけて説明されている箇所が比較的多いようである。文法中心の(1)や(2)については、(1)については会話文に漫画がついていることから発話状況や表情がわかることため、言語の語用論的側面に注目しやすいものと考えられる。(2)については、明示的に語用論的側面に触れている箇所は少ないものの、文法項目そのもの、および例文の中に語用論的側面と関係するものは数多い(動詞 *poder* の例文として許可を求める文、指示詞はダイクシスと関係する、過去未来はポライトネスと関係するなど)。

当然ながら、どの教科書にも語用論的観点から眺めれば何らかの要素は見出すことができた。また、教科書は独習書とは異なり、教室で教員とともに使用することを想定して書かれているので、たとえ教科書に明示的に書かれていなくても、教員が現場で語用論的機能について補足説明を加えている可能性も大いにある。今回のアクティビティが、参加者が言語の運用において必須の能力である語用論的能力に目を向け、日々の授業に生かしていくためのきっかけとなれば幸いである。

<引用文献>

Escandell, M.^a V. (2013) *Introducción a la pragmática*, Barcelona: Ariel.

Pons Bordería, Salvador (2005) *La enseñanza de la pragmática en la clase de E/LE*, Madrid: Arco/Libros.

三原健一・高見健一(編著)(2013)『日英対照 英語学の基礎』, くろしお出版.